

基礎演習 2

責任者・コーディネーター	臨床医化学分野 那谷 耕司 教授		
担当講座・学科(分野)	創薬有機化学分野、臨床医化学分野、情報薬科学分野、臨床薬剤学分野、薬物代謝動態学分野、創剤学分野、生体防御学分野、構造生物薬学分野、天然物化学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 18時間
期 間	前期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

3 学年前期では、2 学年で履修した科目や 3 学年後期科目と連携する科目が多い。本講義では、特に、2 学年後期科目で履修した科目の要点整理をおこない、関連科目の実践的な知識基盤の強化を図る。

・教育成果（アウトカム）

物理、化学、生物、薬理学、創剤学、薬物動態学および衛生化学の学習を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することで、基本的知識の確固たる基盤を形成することができる。また、そうして得た知識基盤を 3 学年前期配当科目の理解に生かすことで、科目間連携を意識できるようになるとともに、関連科目の内容も理解し、説明できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー：2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBO）

基礎薬学分野 : 物理、化学、生物系の薬学専門関連科目の SBOs
 医療薬学分野 : 薬理学、創剤学、薬物動態系の薬学専門科目の SBOs
 衛生薬学分野 : 衛生系の薬学専門科目の SBOs

・講義日程

矢) 西 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
5/26	木	4	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	イントロダクション
5/27	金	3	創薬有機化学分野	辻原 哲也 助教	2 年後期に開講された「有機薬化学 2」の範囲についての復習と問題演習 1. 「有機薬化学 2」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。

					事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。
6/1	水	3	生体防御学分野	錦織 健児 助教	2年後期に開講された「免疫生物学1」の範囲についての復習と問題演習 1. 「免疫生物学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。
6/2	木	4	情報薬科学分野	佐京 智子 助教	2年後期に開講された「生化学3」の範囲についての復習と問題演習 1. 「生化学3」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。
6/6	月	4	情報薬科学分野	氏家 悠貴 助教	2年後期に開講された「化学療法学1」の範囲についての復習と問題演習 1. 「化学療法学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。
6/20	月	4	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 准教授	2年後期に開講された「薬物動態学1」の範囲についての復習と問題演習 1. 「薬物動態学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。
6/22	木	4	創剤学分野	松尾 泰佑 助教	2年後期に開講された「創剤学1」の範囲についての復習と問題演習

					<p>1. 「創剤学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。</p> <p>事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。</p>
6/23	木	3	臨床薬剤学分野	朝賀 純一 准教授	<p>2年後期に開講された「薬理学2」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「薬理学2」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。</p> <p>事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。</p>
6/23	木	4	臨床薬剤学分野	朝賀 純一 准教授	<p>2年後期に開講された「薬理学2」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「薬理学2」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。</p> <p>事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。</p>
6/27	月	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	<p>2年後期に開講された「物理化学2」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「物理化学2」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。</p> <p>事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。</p>
6/28	火	4	情報薬科学分野	佐京 智子 助教	<p>2年後期に開講された「環境衛生学」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「環境衛生学」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。</p>

					事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。
6/30	木	4	天然物化学分野	浅野 孝 助教	2年後期に開講された「食品衛生学」の範囲についての復習と問題演習 1. 「食品衛生学」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。事前学習：関連講義の内容について確認しておくこと。 事後学習：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学習しておくこと。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	2年後期に使用した教科書			

・成績評価方法

<p>各講義で実施される確認テスト（85%）とレポート（15%）で評価する。 なお、各講義で実施される確認テストの総合平均が70点（100点満点換算）を超えた者にのみレポートの点数を加算して評価する。</p>

・特記事項・その他

<p>授業に対する予習には最低30分を要する。さらに、復習には1時間程度を要する。詳細な予習・復習の方法を初回講義時に説明する。講義後にフィードバックとしてmoodleに概況等を掲載する。</p>
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	iPad Air (Apple ME906J/A)	1	講義資料の閲覧